



## 霞ヶ浦の魚

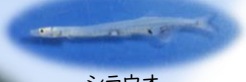
霞ヶ浦の魚は、霞ヶ浦と流入河川との間を行き来したり、成長に応じて湖岸から沖合へ移動したり、湖の中を広く泳ぎまわったりしています。安定して生息するためには、水質や生態に応じた環境が整っている必要があります。



ヌマチチブ



ワカサギ



シラウオ



ギンブナ



霞ヶ浦の魚

## 霞ヶ浦の植物

霞ヶ浦の水生植物は、湖の環境の変化により種類が少なくなってきています。水生植物は、魚のすみかや産卵場所になるばかりでなく、水中の栄養を吸収して水をきれいにする水質浄化機能もあるといわれています。



ヨシ



ヒメガマ



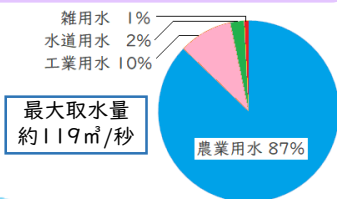
アサザ



霞ヶ浦の植物

## 霞ヶ浦の水利用

霞ヶ浦の水は、農業用水、工業用水、水道用水等に使われています。流域には浄水施設があり、多くの人が水道水として利用しています。



霞ヶ浦の水利用

## 霞ヶ浦の野鳥

霞ヶ浦とその周辺では、季節によって様々な種類の野鳥を観察することができます。稲敷市の稲波干拓付近は関東地方で唯一オオヒシクイの越冬地となっています。



オオヨシキリ



オオヒシクイ(国の天然記念物)



アオサギ



ヨシガモ



霞ヶ浦の野鳥

## 霞ヶ浦

湖沼の成因	海跡湖	(約6,000年前に海水が進入)
最大水深	7m	
平均水深	4m	(琵琶湖 41.2m)
湖面積	220.0km <sup>2</sup>	(琵琶湖 670.25km <sup>2</sup> )
湖岸線	252.4km	(およそ土浦市から仙台市まで)
湖容積	8.7億m <sup>3</sup>	(琵琶湖 275億m <sup>3</sup> )
平均滞留日数	約200日	
流入河川数	56河川	(西浦29 北浦23 外浪逆浦4)
流域面積	2,156.7km <sup>2</sup>	(茨城県の総面積の約3分の1)

## 流域の利用

霞ヶ浦流域では、肥沃な平坦地と良好な気象条件に加えて豊かな水資源に恵まれ、農業、畜産業、水産業等が盛んに営まれています。流域面積の3割以上が農耕地として利用されていますが、近年は、農地が減少し、宅地が増加する傾向があります。魚釣りやヨットなどの水上レジャー、つくば霞ヶ浦りんりんロードでのサイクリングなど、観光・レジャー・憩いの場としてたくさんの人が訪れています。

